

⑨ 日本国特許庁(JP)

⑩ 特許出願公開

⑫ 公開特許公報(A)

昭60-168404

⑪ Int.Cl.⁴

識別記号

庁内整理番号

⑬ 公開 昭和60年(1985)8月31日

A 45 D 33/26

6671-3B

審査請求 未請求 発明の数 3 (全6頁)

⑭ 発明の名称 延出自在のアプリータを備えた化粧用コンパクトとその使用方法

⑮ 特 願 昭59-75664

⑯ 出 願 昭59(1984)4月14日

優先権主張 ⑰ 1983年4月14日 ⑱ 米国(US) ⑲ 484757

⑳ 発 明 者 デビット セイドラー アメリカ合衆国 ニューヨーク州 フォレスト ヒルズ
103番 ストリート 69-10㉑ 出 願 人 レブロン、アイエヌシ アメリカ合衆国 ニューヨーク州 ニューヨーク ファイフ
ス アベニュー 767

㉒ 代 理 人 弁理士 三好 保男

明細書の浄書(内容に変更なし)

明 細 書

1. 発明の名称

延出自在のアプリータを備えた化粧用
コンパクトとその使用方法

2. 特許請求の範囲

(1) 切り込み部を備えた壁と、その壁に対向してほぼ平行に配置された壁と、上記第2の壁に対して一定の角度を持つて設けられた中底とから成る容器、およびアプリータと、そのアプリータを延出させる手段とを有するハウジングとから成り、上記延出手段が、上記ハウジングと容器とを係止させるために上記壁の切り込み部と係脱自在となつてゐることを特徴とするコンパクト。

(2) 第2の壁を中底に対して回転させるために上記容器に形成されたヒンジ手段をさらに有することを特徴とする特許請求の範囲第1項に記載のコンパクト。

(3) 上記容器の中底に一体に取り付けられた鏡をさらに有することを特徴とする特許請求の範囲第1項に記載のコンパクト。

(4) 上記容器の中底上の空間に上記ハウジングを固定するために、上記ハウジングに形成された第1のたな手段と、上記容器に形成された第2のたな手段とをさらに有することを特徴とする特許請求の範囲第1項に記載のコンパクト。

(5) 上記容器中の化粧品を保持するパン手段をさらに有することを特徴とする特許請求の範囲第1項に記載のコンパクト。

(6) 上記伸出手段を上記ハウジングの壁に沿つて移動させるために上記壁に配設されたトラック手段をさらに有することを特徴とする特許請求の範囲第1項に記載のコンパクト。

(7) 上記アプリータと延出手段とを連結させるために上記ハウジングの内側に配設されたスライド手段をさらに有することを特徴とする特許請求の範囲第1項に記載のコンパクト。

(8) 上記スライド手段と係合するため上記ハウジングの内側に配設されたノッチ手段をさらに有することを特徴とする特許請求の範囲第7項に記載のコンパクト。

(9) 上記ノッチ手段に係合するために上記スライド手段に設けられたニブ手段をさらに有することを特徴とする特許請求の範囲第8項に記載のコンパクト。

00 上記スライド手段が、I字形をしており、上記ニブ手段を運ぶための脚手段と、上記アプリケーションを安定させるための支持手段とを有することを特徴とする特許請求の範囲第9項に記載のコンパクト。

01 上記支持手段は、上記延出手段が上方に押し出される時に、上記脚手段を後方に曲げる切り込み手段を有していることを特徴とする特許請求の範囲第10項に記載のコンパクト。

02 上記ハウジングを把持するため前記2つの壁に切り込まれた斜截部手段と、上記中底を係止させるため上記容器に形成された第3の脚手段とをさらに有することを特徴とする特許請求の範囲第1項に記載のコンパクト。

03 低い側壁と、上記低い側壁へ向つてスロープしている斜截部を有する平行に対向する2つの

壁と、上記低い側壁と平行に対向している高い側壁と、中底と、上記4つの壁の間において中底上方に設けられた空間とから成る容器、およびアプリケーションと、上記4つの壁の間における中底上方に設けられた空間で容器とアプリケーションとを係止させる手段と、上記ハウジングを上記4つの壁の間における中底上方の空間から離脱自在に把持するために上記2つの壁の斜截部上に現出される部分を有する側壁とから成るハウジングから成ることを特徴とするコンパクト。

04 上記容器の高い側壁が、その上端の下側にたなを有し、上記斜截部を有する2つの壁の内の1つが切り込み部を有することを特徴とする特許請求の範囲第13項に記載のコンパクト。

05 上記ハウジングの係止手段が、上記アプリケーションを伸出する手段と、上記容器の高い側壁の上端の下方で上記たなと係合するために上記アプリケーション用の開口部の一端に沿つて配設されたたな手段とを有し、上記延出手段が、上記斜截部を有する2つの壁の内の1つに設けられた切り込み部

(3)

と係合自在となつていることを特徴とする特許請求の範囲第13項に記載のコンパクト。

06 コンパクトを用いる方法にして以下の工程から成ることを特徴とする方法：

化粧容器とアプリケーションハウジングとを連結させるため切り込み係止手段をアンロックする；

アプリケーションとアプリケーションハウジングとを連結させるためスナップ係止手段をアンロックする；

閉じられた状態で化粧容器を保持するくさび係止手段をアンロックする；

07 上記スナップ係止手段をアンロックする工程が、さらにアプリケーションをアプリケーションハウジングから延出させる工程を含むことを特徴とする特許請求の範囲第16項に記載の方法。

08 上記くさび係止手段をアンロックする工程が、鋭を有する少なくとも1つの底を容器に設けられたヒンジの回りを回転させる工程を含むことを特徴とする特許請求の範囲第15項に記載の方法。

09 上記くさび係止手段をアンロックする工程

(4)

が、容器中の鋭と化粧品を使用するために現出させる工程を含むことを特徴とする特許請求の範囲第16項に記載の方法。

04 上記少なくとも1つの底を回転させる工程が、さらに上記底に一定の角度を持つて連結されている壁をヒンジを中心にして回転させることを特徴とする特許請求の範囲第18項に記載の方法。

3. 発明の詳細な説明

〔発明の背景〕

本発明は、新規で改良された化粧用コンパクトの構造と意匠に関し、特に延出自在のアプリケーションを備えたコンパクトと、その使用方法に関するものである。

〔先行技術の説明〕

基本的には、従来の技術では、安価で、機能的で且つ小型の化粧用コンパクトを作ることが問題とされてきた。例えば、英国特許第310139号、米国特許第2442541号、米国特許第3442414号及び米国特許第3729011号に、そのような従来技術を見ることができる。

(5)

(6)

〔発明の要約と目的〕

基本的に、本発明は、重要で高い機能を持ち、安価なプラスチック構造のコンパクトの爲になされた。そして、本発明になるコンパクトは、小型となつてゐるが、使用する上で充分の大きさのアプリケーションと、充分の量の化粧品を備えている。

本発明の第1の目的は、その底部にパウダー又はクリーム等の為のコンテナと、リビングヒンジによつてコンパクトに取り付けられた蓋部と一体となつた鏡と、側壁に沿つて摺動するボタンによつてハウジングから推し出すことのできるブラシ型のアプリケーションを脱離する為鏡の上に設けられた空間部分を有するコンパクトを提供することである。

本発明の第2の目的は、コンパクトを使用する為の新規な方法を提供することである。この方法は、下方切り込み係止、スナップ係止及びウエッジ係止に関する3つの係止解除ステップを含んでいる。その詳細は、以下の説明で述べられる。

〔好適な実施例の説明〕

(7)

れたボタン4を、ハウジング2の側壁15に沿うトラック5内で摺動させることによつてなされる。

さらに、第2図には、開口状態の底部コンテナ1が示されている。約90°で互に一体的に接続された背壁7と中間床部8は、化粧品又はパウダー11と鏡10を露出させて使用できる様に、リビングヒンジ9の回りを回転した状態となつてゐる。背壁7は、指で操作して鏡10の角度を調節できる機能を持つてゐる。

スライド13の横断支持部材27に、ブラシ3の補強基部6が着実に保持されているのを見ることができる。その他の詳細については、このコンパクトの操作の説明によつて、完全に述べられる。

このコンパクトの構成には、係止一係止解除の3つの特徴点が含まれている。第1図及び第2図に見られる様に、コンテナ1の右側の前壁14の上端に沿つて、ハウジング2のトラック5から突出するボタン4に係合する為の、下方切り込み部15が設けられている。そして又、第3図に良く見らとができないからである。どの実施例でも、

(9)

第1図を参照すれば、底部コンテナ1と頂部アプリケーションハウジング2を有するコンパクトが示されている。ハウジング2の内部に、アプリケーションが部分的に示されている。このアプリケーションは、好ましくは、ハウジング2の側壁16に沿つて形成されたキー溝又はトラック5内をスライドするキー又はボタン4によつて延出自在となつてゐるブラシ3である。ブラシ3の為の開口部の上縁部分にはたな22が設けられている。底部コンテナ1は、側壁27、背壁7及び中間床部8を含み、この背壁7及び中間床部8は、リビングヒンジ9の回りで回転可能である。底部コンテナ1は、さらに、下方切り込み部15を備えた前壁14と、側壁23を含んでいる。この背壁7と前壁14は、互に対向していると共に互に平行である。壁7、14は、又、低い側壁23の高さ程度迄、斜めに下つてゐる斜縁部24を有している。

第2図には、ハウジング2から完全に延出した状態のブラシ3が示されている。ブラシ3の延出は、ブラシ3の補強基部6へ間接的に取り付けら

(8)

コンテナ1がその閉状態にある時は、化粧品11を漏れたりコンパクトの他の部材を汚したりしない様に、鏡10によつてシールされる。鏡10とパン12の上端間には、僅かな空間が設けられ、これによつて、化粧品11が直接鏡10に接触しない様になつてゐる。

第5図と第6図を参照すれば、ブラシ3が延出する頂部ハウジング2の内部を詳しく見ることができる。例えば、ボタン4が取り付けられたI型

第3図及び第4図を参照すれば、コンパクトの内部の構成を詳細に見ることができる。側壁27の背面側の頂部縁部下のたな26は、ハウジング2の頂部縁部上のたな22と係合する。さらに、例えば化粧品11は、コンテナ1内部の置き替え可能なパン12内に詰められている。選択的に、化粧品11は、パン12を使用しないでコンテナ1内に直接収めても良い。しかしながら、この様な方法は好適ではない。なぜなら、この場合パン12内に化粧品11を用意した様に、化粧品11を容易に取り替えるこれら如く、ハウジング2の

たな 22 は、コンテナ 1 の側壁 25 の頂部縁部の
たな 26 の下で係合している。このアセンブリは
、コンテナ 1 とハウジング 2 の為、第 1 系止特
徴部分を備え、下方切り込みを用いた係止方法に
関している。

第 4 図に良く見られる様に、背壁 7 と、下部に
鏡 10 が取り付けられた中間床部 8 は、互に 90°
をなして固く成形されており、これによつて、ブ
ラシ 3 の為のハウジングが、それから外れてしま
うのを防止している。背壁 7 と中間床部 8 は、コン
テナ 1 の前壁に対向して、ハウジング 2 を摩擦接合
によつて閉じ込めている。機能的には、この第 2 の
係止特徴点は、コンテナ 1 の内部にハウジング 2 を
固定することの他に、中間床部 8 をそこに取り付
けられた鏡 10 と共に、コンパクトが閉状態にある時
の位置に、しっかりと係止することを含んでいる。

この第 2 の係止特徴点は、中間床部 8 の自由端
が、第 4 図の右側に示されている様に、コンテナ
1 の内側のたな 21 に対して接触した時に、良く
見ることができ、ウェッジ係止として関係付けら

れる。

第 5 図及び第 6 図を参照すれば、ハウジング 2
の側壁 16 の内側には、第 1 図及び第 2 図に見ら
れるキー溝又はトラック 5 の僅か上に、少なくと
も 2 つのノッチが切り欠かれている。ここで、第
3 図及び第 4 図の右側に、ノッチ 17 を見るこ
とができる。第 5 図及び第 6 図から明らかな如く、
ノッチ 17 のいずれか一方と係合したり、係合解
除したりする為、先端部分 18 は、I 型スライ
ド 13 の 1 の 1 つの脚部 19 から延びていると共
に、これと一体的に形成されている。小さな下方
切り込み部 20 は、I 型スライド 13 内の脚部 1
9 のすぐ上に形成されており、これによつて、コ
ンパクトの使用者がキー又はボタン 4 を押した時
にいつでも、脚部 19 は、容易にその先端部 18
を、ノッチ 17 内へ或はノッチ 17 の外へ曲げる
ことができる。この第 3 の係止特徴点は、スナッ
プ係止として関係づけることができる。

このコンパクトの使用に関して、詳細に説明す
る。完全に閉状態にあるコンパクトを示す第 3 図

01

の説明から始める。最初に、使用者は、コンパク
トを開ける為、ボタン 4 を右側へ押す。このボ
タン 4 が、右側端迄達した時、使用者はコンテナ
1 の斜縁部 24 の上に露出した両側壁 16 の部分
を指でつまむ、そして、ハウジング 2 の底部 4 が
、コンテナ 1 の下方切り込み部 15 を通り過ぎ、
ハウジング 2 のたな 22 が、コンテナ 1 のたな 2
6 から外れる様に、ハウジング 2 を上方へ持ち上
げる。従つて、第 1 図に示す如く、コンテナ 1 の
中間床部 8 上方から離れて、下側壁 23 の上方へ
ハウジング 2 を取り外すことができる。これで、
第 1 の係合解除ステップは終わり。

第 5 図及び第 6 図の右側に示されている如く、
ボタン 4 は、先端部 18 がノッチ 17 から外れる
様に内側へ押し込まれる。下方切り込み部 20 は
、脚部 19 を後方側へ曲がれる様にしている。こ
れにて、第 2 の係合解除ステップは終わり。

使用者は、第 2 図に示されている様に、ボタン
4 がトラック 5 の左端部で止まる迄、ハウジング
2 の側壁 16 に形成されたトラック 5 に沿つてが

02

タン 4 を押すことによつて、ブラシ 3 を推し出す
(第 6 図参照)。これによつて、ブラシ 3 は、完
全に延出される。ここで、第 6 図を参照すれば、
ブラシ 3 は、その動きは安定していることが分る。
なぜなら、その補強基部 6 は、I 型スライド 13
の横断支持部材に支持されているからである。そ
して、使用者が、左側のノッチ 17 内に先端部 1
8 が入り込む様に、ボタン 4 を離すと、ブラシ 3
は、その完全に延出した位置に係止される。

ここで、第 1 図を参照すれば、使用者が背壁 7
の内側を押せば、中間床部 8 は内側のたな 21 から
外れる(第 4 図参照)。第 2 図に示されている如
く、好ましくは互に一体的に形成される背壁 7 と
中間床部 8 は、その開状態まで、リビングヒンジ
9 の回りに約 90°或いはそれ以上の角度だけ反対
側へ回転する。これで、第 3 の係止解除ステップ
は終り。

これにて、中間床部 8 の下面に取り付けられた
鏡 10 と化粧品 11 は、夫々使用される状態で完
全に露出した。ハウジング 2 を持つた使用者は、

03

04

ブラシ3の端部を、化粧品11'内に軽く叩いて、化粧品を好きな箇所に塗ることができる。このコンパクトは、スナップ係止、ウェッジ係止及び下方切り込み係止を含む3つのステップを逆の順序で行なうことによつて、再度係止して閉状態にされる。

このコンパクトの為の図面及び説明は、この発明の構成及び形状を限定するものではない。従つて、特許請求の範囲に包含されている基本的な概念から導き出せる多くの変形例等が考えられることはいふまでもない。

4. 図面の簡単な説明

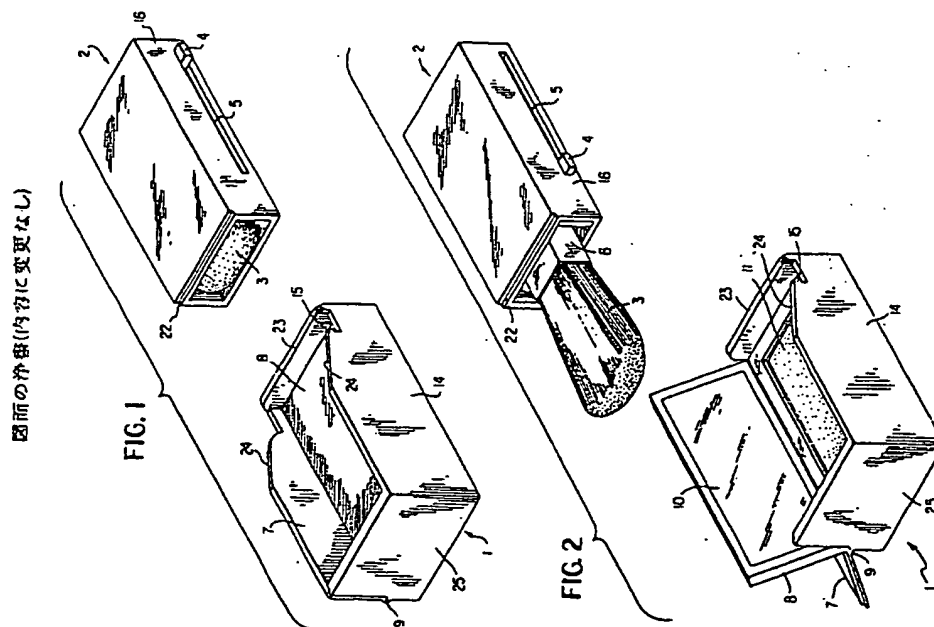
第1図は、アプリケーションを内蔵した部分と、蓋を閉鎖した状態の底部分を分解した分解したコンパクトの分解斜視図、第2図は、アプリケーションを容器から押し出し、コンテナの蓋を鏡と中の化粧品が見えるように開いて、使用可能な状態にした時のコンパクトの分解斜視図、第3図は、コンパクトが閉状態にある時の、一部切截縦断面図、第4図は、閉状態のコンパクトの側部断面図、第

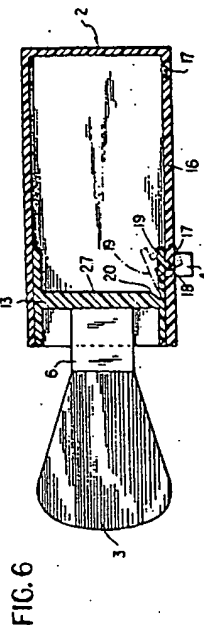
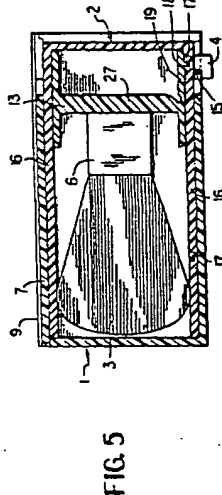
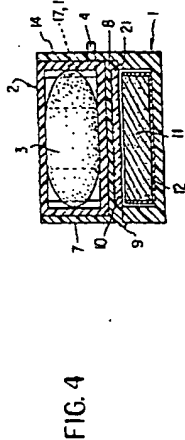
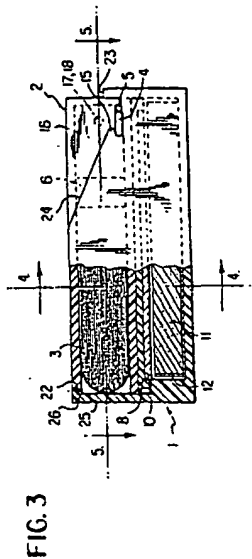
5図は、ハウジング内に、アプリケーションを収納したコンパクトの頂部断面図、第6図は、ハウジングから延出したアプリケーションを偏めたコンパクトの頂部断面図である。

代理人 弁理士 三 好 保 男

05

06





手続補正書

昭和60年3月8日

特許庁長官 志賀 学 殿

1. 事件の表示 昭和59年 特許願第75664号

2. 発明の名称 延出自在のアプリケータを備えた化粧用コンパクトとその使用方法

3. 補正をする者

事件との関係 特許出願人

住所(居所) アメリカ合衆国 ニューヨーク州 ニューヨーク
フィフス アベニュー 767

氏名(名称) レブロン、インコーポレイテッド

4. 代理人

住所 〒105 東京都港区虎ノ門1丁目2番3号

虎ノ門第一ビル5階

電話 東京(504) 3075・3076・3077番

氏名 弁理士(6034) 三好 保男

5. 補正命令の日付 昭和 年 月 日
(見送り 昭和 年 月 日)

6. 補正の対象

- (1) 願書の特許出願人の代表者の欄
- (2) 願書の前記以外の代理人の欄
- (3) 明細書
- (4) 図面
- (5) 委任状及び同訳文

7. 補正の内容

- (1) 訂正願書(補正の対象に記載以外変更なし)
- (2) 明細書の添付(内容に変更なし)
- (3) 図面(内容に変更なし)
- (4) 委任状及び同訳文の提出

8. 添付書類の目録

- | | |
|--------------|-----|
| (1) 願書 | 1通 |
| (2) 明細書 | 1通 |
| (3) 図面 | 1通 |
| (4) 委任状及び同訳文 | 各1通 |

BEST AVAILABLE COPY